

老健にいがた

2023. 2 Vol.52

第52号



ケアホーム三条 ご利用者様作品です

目次

巻頭言	1	LIFEの取り組みアンケート結果報告	8
特集①：「第33回介護老人保健施設全国大会兵庫」に参加して	2～4	こんなことやってます!!～会員施設の取り組み～	9～12
特集②：認知症専門棟による新型コロナウイルスクラスター発生	5～6	老健マップ	13～14
研修会報告	6	みんなの広場	15
協会だより	7		

巻頭言

新潟県介護老人保健施設協会

副会長 松田由紀夫



日本の介護はこれからどうなるのか。2000年に日本の介護保険制度は始まった。介護の公共化、家族介護からの脱却、女性の介護からの解放などを目標とし、理念は素晴らしく、そのまま進むと期待された。しかし、高齢化により国の年金、医療費、介護費用は増え続け、介護保険の内容変更が繰り返された。施設利用は制限され、要介護度の低い者は介護保険外のサービスに移行されることになった。介護保険が始まってからの20年の間に日本を取り巻く環境も大きく変わった。これまで世界では経済の発展により、中流の会社員が大半を占めるようになっていた。グローバリズム、インターネット等の発展は世界を一部の持てるもの（上層）と大半の持たざる者（下層）とに分断し、その壁を超えるのは難しくなっている。自分たちは親の世代よりも豊かな生活を送れないと考えている学生が多いとの報告もある。新卒求職者の多くが公務員や一流企業の会社員を希望し、肉体労働や給与の低い中小企業を避けている。介護職も希望者の少ない職種となった。日本の労働者の給与はこの20年間ほとんど上昇せず他先進国との差が開いてきている。就職活動においても国際化は進んでおり、各国の成績上位者は国境を越えてゆく。このままでは優秀な外国人労働者は日本には来なくなってしまう。しかし、東南アジアにはフィリピン、インドネシア、ベトナム、タイ、ミャンマーなど若年者が多い国々があり、しばらくは日本に就職先として来てくれるだろう。日本人の生産年齢人口（15歳～65歳）は7000万人、現在外国人労働者は170万人である。もしも自由に日本で働くことが出来るようになったら先に挙げた国のほかに中国や隣国からも多数の労働者が来て、日本の労働環境は大混乱、無職の日本人があふれるであろう。これを避けるために政府は入国制限の緩和は現行のままにしておくと考えられる。今、日本人の新卒介護職員がほとんどいない。やがて日本人の介護を外国人に全て委ねる日が来るかもしれない。日本だけが少子高齢化にさらされているわけではない。世界の人口は2022年に80億人を超えた。インド、アフリカ大陸では当分の間人口増加が続くが、最大の人口国中国では2022年から人口減少が始まった。我々を取り巻く問題は人口問題だけでなく、一国では解決できない多くの問題であふれている。自由貿易市場は各種災害、未知の感染症、戦争等によって機能を失い、地域に食糧危機を招く。日本のように資源の乏しい国は資源の有効活用と各国との関係を友好に保つように努力しなければならない。そしてわたしに出来ることは要介護者や家族、介護に関わる人々が今後も幸せな生活が続けられるように祈る事のみである。

新しい全国大会のかたちと、変わらない探究することの大切さ

介護老人保健施設 グリーンヒル与板 主任支援相談員 遠藤 直人

令和4年9月22日～23日にかけて、「第33回 全国介護老人保健施設大会 兵庫」が開催されました。新型コロナウイルス感染症の影響により過去2回が中止となり、3年ぶりの開催でした。大会テーマは「新たな時代をいきぬくために ～今、老健ができること～」であり、大会運営には感染対策の徹底やオンラインと会場参加のハイブリッド方式がとられるなど、まさに今の社会に即した新しい全国大会となりました。

大会参加中は各個人の体調管理に加え、万が一に備えて抗原検査キットを持参し、大会終了後には抗原検査により陰性を確認する等の感染予防対策をとっておりました。大会運営についても感染予防対策が徹底されていました。会場の至る所に検温計とアルコール消毒液が設置され、移動するごとに検温と消毒が行われる状況でした。検温と消毒、参加者の移動が滞りなく行われるよう、運営スタッフも各所に配置されていました。感染予防対策だけでなく、オンライン配信のために各発表会場に専用機材が設置されるなど、大会を迎えるまでの準備には並々ならぬご苦労があったものと推察いたしました。

新潟県内からは3施設の発表があり、越南苑「認知症専門棟による新型コロナウイルスクラスター発生 ～施設内療養を振り返って～」、てらどまり「気づきを行動に移せるしくみ ご利用者が心地よく生活できる環境づくり」、グリーンヒル与板「在宅復帰の取り組みから得られたチームの成長 アンケート調査からみえた職員の変化」と題した発表でした。私は、上記3題のほか在宅支援や支援相談員の取り組みを中心に聴講いたしました。多くの発表が、超強化型の算定や稼働率の向上を図る中で直面した課題に対し、要因を考え、成功までの道筋を予測し実践されていました。その予測は感覚的なものだけでなく、データを基に検討されていました。これらの取り組み自体もさることながら、その発表をまとめていく過程は、「超強化型の算定」や「稼働率の向上」のような成果が得られただけでなく、日々積み重ねてきた実践の価値を高めることにつながったのではないかと感じました。堂々と発表する姿からは、これまでの苦労だけでなく、取り組みから得られた自信を感じました。

コロナ禍において様々なものが制限を余儀なくされている中、この度の全国大会への参加は非常に実りのあるものとなりました。発表を終えられた皆様、大会運営に関わられた兵庫県介護老人保健施設協会の皆様に心から敬意を表します。令和5年度は11月に宮城県仙台市で開催される予定です。



<開会式の様子>

これから全国大会が始まる高揚感に包まれていました。



<ROKENくんたち>

会場で数量限定で配られていました。施設の受付で来所者をお出迎えしています。

「業務改善と効率化」は「ICT 機器」の導入から

介護老人保健施設 てらどまり リーダー理学療法士 金子 純也

私は9月22、23日に兵庫県にて開催された、第33回全国介護老人保健施設大会に参加してきました。

新型コロナウイルスの影響により、第31回大会及び第32回大会が中止となり、3年ぶりの全国大会でした。今回は現地だけではなく、オンラインからも参加できるという新しいスタイルの開催であり、画期的な大会だと思いました。

演題発表プログラムでは「リスクマネジメント」や「全体的なケア」、「リハビリ」、「医療と看護介護」など、さまざまな分野の演題をみる事ができました。特に注目を集めていたのが、「業務改善と効率化」として「ICT機器」の導入についてだと感じました。やはり超高齢社会による働き手の減少があり、その中でも介護業界の人手不足は、深刻とされています。また厚生労働省は介護ロボやICT機器導入を進めており、支援金なども行っています。そのためか、多くの参加者・施設が興味を持たれ、会場はほぼ満席状態であり、質問も多く飛び交っていました。

ある施設の発表では、職員全員にiphoneを携帯させ、ケアの記録をいつでもどこでも記録する事が可能になったとの事です。また居室にカメラ付きセンサーを導入する事で、利用者の状況を瞬時にiphoneへ通知し、事故予防や分析ができるようになり、これらのICT機器を導入したことで、記録や巡視の業務時間の短縮につながったとの事です。当施設も人員が不足しており、超過勤務が生じている部署があります。今後は、施設でICT導入を推進していき、業務の効率化を図りたいと思いました。

その他に福祉・医療機器展の見学をしてきました。そちらでは福祉用具のリフトや補助食品、ICT機器など最新のものが展示されていました。私が興味を持ったものとして、ベッドサイドに設置できる床です。この床は歩行や車椅子などの移動時は、普通の床と変わらず硬くなっています。しかし、転倒などある一定の衝撃が加わった時に、緩衝材が凹み柔らかくなります。そうすることで、人体にかかる負荷をフローリングと比較して半分程度軽減してくれ、骨折事故を低減できるとの事です。「高齢者の転倒予防ガイドライン」には、高齢者の転倒は「事故というより身体的疾患に起因する『疾患』」と記載されており、施設内の転倒は予防できないとされています。しかし、これらの床があれば転倒しても、重大事故になるリスクを大きく軽減できると感じました。

以上のように全国介護老人保健施設大会にて、多くのことを学ぶことができました。これらで得たことを、ご利用者の自立支援や日々の業務改善に生かしていきたいです。また、コロナ禍で制限がある中、素晴らしい大会を運営して下さった関係者の方に、この場をお借りして感謝を申し上げます。



集合写真



福祉機器展見学

「第33回 介護老人保健施設全国大会 兵庫」に参加して

介護老人保健施設 越南苑 看護部長 若井 由紀子

新潟県介護老人保健施設協会の役員の皆様をはじめ、会員の皆様にはご支援ご協力を賜り感謝申し上げます。

令和2年から日本国内で新型コロナウイルス感染症の一例目が報告されて3年目となり11月15日全国の新たな感染者数は10万人を超え日本医師会では第8波に入ったとの認識を示され、今なお多くのコロナ感染者が確認されており、どこの施設におかれましても緊張感が続く毎日であると拝察しております。

平穏な日々に戻るまでには、もう少し時間を要しそうですが、現状の中で出来る事を考え、工夫しながら皆で協力し継続してサービスが行えるよう努めて参りたいと思います。

この度、コロナ禍の第7波がようやく落ち着いてきた間を縫うように、2022年9月22日・23日に3年ぶりの全国介護老人保健施設大会が兵庫県神戸市にて開催されました。大会のテーマは、「新たな時代をいきぬくために～今、老健ができること～」です。大会初のオンライン配信でも参加できるハイブリッド方式の新しいスタイルで行われました。会場参加は神戸ポートピアホテルと神戸国際会場の2場所で行われました。当施設は会場での参加をさせていただきました。当施設において2022年2月26日、第6波時に認知症専門棟で初めて新型コロナウイルスが発症し、施設内療養でのクラスター発生時の対応と振り返りを行った取り組みについて全国大会で発表させていただいたので紹介させていただきます。



大会では最新機器の展示も見ることができ、他の施設の発表から多くの学びを得ることができました。越南苑では、来年度はリハビリスタッフが参加の計画を立てています。施設の活性化に繋がっていただければと思っています。

※特集②へ続く (5ページへ)

(第33回全国大会発表演題より)

「認知症専門棟による新型コロナウイルスクラスター発生」 ～施設内療養を振り返って～

介護老人保健施設 越南苑

<はじめに>

2022年2月26日に当施設の認知症専門棟で初めての新型コロナウイルスが発症した。施設内療養でのクラスター発生を振り返り、感染拡大を最小限に留める為、初動対応の体制を再考したことを報告する。

当施設は、新潟県の南部の魚沼盆地に位置する南魚沼市、南魚沼産コシヒカリ米の産地にある。

当施設越南苑は、南魚沼市唯一の介護老人保健施設で超強化型を取得している。入所数は認知症専門棟2棟98床、一般棟2棟102床で総数200床である。長期、短期、ミドルの受け入れを行っている。

<経過と対応>

2月26日に認知症専門棟の1棟で入所者1名が発熱し、簡易抗原検査の結果陽性であった。保健所の指示で、入所者50名とスタッフ38名のPCR検査を行った。結果、入所者3名とスタッフ1名が陽性となり、合計5名となった為クラスター認定され、施設内療養で感染対応を行った。

入所者は普段、ホールの共有スペースで過ごされているが、感染対策の為、まず居室経過を促した。しかし、すぐに居室から出てきて歩き回ったり、マスクをしても外してしまったりで、居室経過をしていただくことが大変困難であった。またスタッフは防護衣(PPE)をつけながらの業務で清潔不潔の区別に現場は混乱した。そして、発症から2日目の28日には新たに3名の陽性者が発症した。このままでは感染拡大の恐れが考えられた為、県に感染管理認定看護師の派遣を依頼し、感染対応について確認を行った。その時、ホールに入所者が多くおられることに交差感染のリスクを懸念され、「業務の縮小を視野に入れ、人も、ものもゾーニングの検討が必要である」と判断され、ご指導のもとゾーニングの見直しを速やかに行った。そして、他部署からの応援態勢を整えた結果、4日目にして、全入所者の居室経過をすることができ、汚染区域だけでなく、居室に入る担当をレッドとし、物品を取る人渡す人をグリーンとして、人もゾーニングし対応することができた。さらに交差感染リスクを軽減するため、物品や配膳を置いたりする場所を確保しテーブル上で視覚的にゾーン分けすることによって、清潔不潔がわかりやすくなってケアもやりやすく交差感染のリスクも軽減することができた。最終的には、50名中の9名が陽性となったが、3月19日解除指示宣言にて3週間で収束となった。

<まとめ>

初動が感染拡大防止の要と考える。その為には、①早期に入所者を居室経過とする。②交差感染を防ぐため、人やものをゾーニングすることが大切である。③事前に具体的な応援体制の準備を整え、どここの部署がどんな役割をするか、内容を具体的に整理し、応援を要請した時、スムーズに行動が出来るようにしておくことが必要である。その為、事前準備の細かい業務内容や分担についてリスト化した。

また、感染発生時に人員を減らさない為にも、まずはスタッフ自身が感染しないように対応することも大切である。

最後に、感染対応は、普段以上に業務量が増える中で、入所者のケアも続けていかなければならない。その為にも、ウイルスの特徴¹⁾を理解し私たちが汚染した手で、自身が感染したり、感染の拡大をさせることのないように、普段からの標準予防策を徹底して行きたい。

参考：1) <https://www.mod.go.jp/gsdtd/mae/images/korona-kyuiku.pdf>

以上が発表内容です。質問については下記の内容がありました。

Q：応援要員はどのように集めたか？

A：組織的応援体制の整備を行い整えた。

Q：認定看護師はどこに依頼し、どこから来ていただいたのか？

A：管轄の保健所に依頼し、地域の病院におられる感染管理認定看護師1名にきていただき巡回して気づいた点の指摘や悩む点等の質問を受けていただいて2時間程度ご指導いただいた。

Q：治療はどのようなことが行われたか？医師は施設の医師か？

A：施設の医師からご家族に内服ラゲブリオの服用についての説明と同意を得たのち発症者に服用していただいた。他、食事量が低下されたご利用者は点滴、酸素化が低下された方には酸素療法等の治療を行った。

Q：認知症の方の居室対応は簡単ではないと思うが、どういった点に苦慮されたか？

A：ADLが低下しないよう、各居室にテーブル等を設置して都度立位を促したり、座位保持していただく等の対応や、どうしても落ち着かず居室の外に出たい方は、陽性者以外の方では、マスクを着用し誰が発症するかわからない為、濃厚接触にならない時間の範囲で居室外を歩き回ってから再度居室へと戻っていただいたりしてケアに当たった。その際、手で触れた環境は消毒を行った。



コロナ禍の全国大会であり、同じセッションでは当日にキャンセルとなった施設があると報告がありました。一日も早く、平穏な日常が取り戻せるよう心から願っております

研修会報告 認知症リスクマネジメント研修会

今年度はじめての当協会主催の研修会として、認知症ケアにおけるリスクマネジメント研修会が行われました。本研修は、東京海上日動ベターライフサービス株式会社の泉洋枝先生を講師としてお招きし、オンラインにて24施設35名が参加しての開催となりました。

開催日：令和4年8月31日
参加施設：24施設
参加者：35名

認知症の基本の再確認や根拠に基づくケアを学びました。また「水分、食事、排便、運動」の4つのケアを適切に行うことで、症状改善につながる可能性があるとのことでした。

オンラインでしたが、講義のポイントごとに講師からの質問にアンケートで答える形式にて参加型の研修でした。アンケートの内容も数値として現れ、参加者全体の考えもわかり、より理解が深まるものとなりました。



受講風景 (やすらぎ園)



講師の泉 洋枝先生



協会発足時の平成2年から協会役員としてご尽力いただきました、介護老人保健施設グリーンヒル与板並びてらどまり、楽山苑、前理事長の田中政春先生が令和4年12月2日に永眠されました。田中政春先生が残された多くのご功績の中でも、平成21年7月「第20回全国介護老人保健施設大会新潟」で大会会長として、全国から4,800余名の参加をいただき盛会裡のうちに終了し、一般演題では1,070題のうち新潟県から90演題が発表し新潟県の実力を全国に示されたことは、数あるご功績の中でも特筆されるものです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成2年度～平成7年度	協会監事
平成8年度～平成11年度	協会理事
平成12年度～平成22年度	協会会長（全老健新潟県支部長）
平成23年度～令和4年度	協会顧問

令和4年度介護老人保健施設事業功労者厚生労働大臣表彰



本県から当協会副会長でケアポートすなやま理事長の松田由紀夫先生が受賞されました。

令和4年度新潟県介護老人保健施設協会介護米百俵基金永年勤続表彰

永年勤続表彰は43施設181名が受賞されました。
受賞者には表彰状と記念品を添え、表彰いたしました。

令和5年度「新潟県介護老人保健施設大会」開催のお知らせ

開催日時 令和5年11月2日(木) 午前10時より(予定)
会 場 新潟ユニゾンプラザ
参加受付 令和5年7月中旬より参加受付開始予定

第34回全国介護老人保健施設大会 宮城

地域共生社会の復権と老健
～デジタル化時代の絆～
をテーマに令和5年11月21
(火)～22日(水) 仙台国際セ
ンターにおいて、開催され
ます。



新潟県の最低賃金について

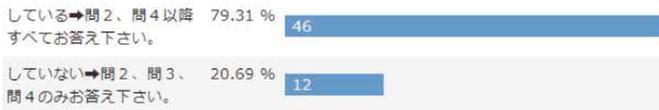
令和4年10月1日より、
新潟県の最低賃金は従来の
時間給から31円引き上げ
られ、890円になりました。



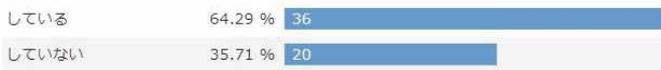
新潟県介護老人保健施設協会LIFEの取り組みについてのアンケート結果報告

令和4年9月16日～11月11日で実施いたしましたアンケート調査につきまして報告いたします。
回答施設数は58/89で回答率65.17%でした。

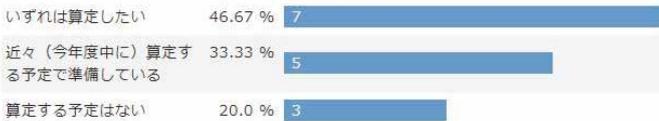
〈問1〉LIFEへの取り組み状況についてお伺いします。
現在LIFEは算定していますか？



〈問2〉貴施設ではLIFEに対応したシステム（電子カルテ等）が
導入されていますか？



〈問3〉問1で「算定していない」と回答された施設にお伺いします。
今後算定する予定はありますか？



JS chart by amCharts

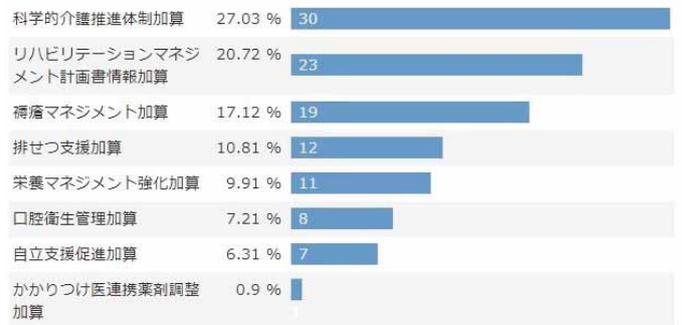
〈問4〉LIFEに取り組む上で課題となっていること、困っていることは
ありますか？（複数回答可）



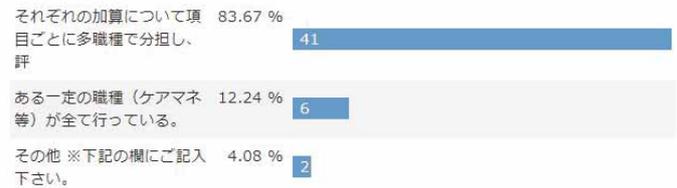
〈問5 - 通所〉LIFEへの情報提出が要件となっている加算のうち、
貴施設で取得しているものは？（複数回答可）



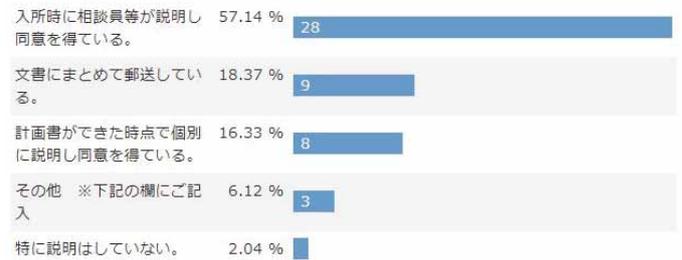
〈問5 - 入所〉LIFEへの情報提出が要件となっている加算のうち、
貴施設で取得しているものは？（複数回答可）



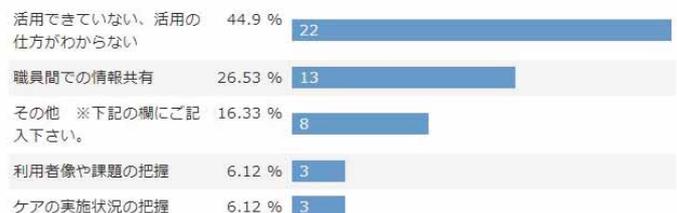
〈問6〉施設におけるLIFEへの取り組み方について質問します。



〈問7〉加算について、ご家族への説明等はどのようにしましたか？



〈問8〉LIFEのフィードバックをどのように活用されていますか？



ご協力いただきました施設の皆様
ありがとうございました

健康も生活の維持も、 まずは食から

希望の里松涛園
業務課長 丸山 修二

希望の里松涛園は、旧東頸城郡、上越市と十日町市をつなぐ山間部に立地しており、春や夏は山野の緑が目優しく、秋は紅葉や田の実りの千紫万紅、そして冬はすべてを覆いつくすように広がる白銀の雪と、四季の変化を間近に感じられる自然豊かな地域です。

「健康も生活の維持も、まずは食から」という考えから当施設ではイベント食と題して季節毎に、2ヶ月に一度のペースで様々なメニューを提供しています。

例えばお正月のおせちに始まり、節分の太巻き、春(秋)のお彼岸のおはぎ、ひな祭りのちらし寿司、土用の丑のうなぎにスイカ割り、そしてご利用者様方に最も人気の「生寿司」の日があります。

開設当初からの恒例行事で、ご利用者様方の眼前で板前さんがお好みのネタを握り、おかわりは自由とあって、普段



あまりお食事を召し上がらない方の寿司桶も瞬く間に空になっていきます。

もちろん、ご利用者様皆さんに楽しんで頂くため食形態も考慮して、柔らかなお寿司も用意しています。

言語聴覚士と 食の楽しみを最後まで

ほほえみの里きど
副施設長/理学療法士 江川 真司

ほほえみの里きどは2005年(平成17年)6月1日に新潟市東区に開設し、現在17年目を迎えています。

90歳以上の人が6割位を占め、現在100歳越えの方も数名います。超高齢者の特徴の一つが食事を食べられることです。

写真の男性(92歳)は大動脈解離という大病を患い、誤嚥がみられました。

言語聴覚士の指導で食事中の姿勢を調整し、その後は誤嚥が軽減、食欲が好転し本人の希望でお粥大盛としています。



また、エンディングケア・ユニットケアの一環として食を楽しむことを行っております。

人生の最後に食べたいものは何ですか?の問いに、「コロッケ」とお答えいただいた利用者様がおられ、料理の得意な職員が「お安い御用!」と目の前でコロッケを作りました。別の日にはフロア内で臨時のラーメン店を開き、某有名ラーメン店で腕を磨いた介護士がラーメンを作り、トッピングを選んで食べて頂きました。喜んでもらえたら幸いです。



旬の食事で笑顔に！！

杏園
管理栄養士 清野 絵理

当施設の食事は、地元食材の使用を心がけ、在宅に戻られても作れるように、食事の見本となるような食事提供を行っています。

入所されている利用者様は、3食の食事を楽しみにして下さる方が多くいます。当施設では毎月1日を「旬の食材の日」とし、毎日の食事はもちろんですが1日は特に力を入れて旬の食材を使用して献立を作成しています。食事提供後は食事の写真と食材の情報を入れたポスターを作成し各フロアに掲示し、食べた後も目で楽しめるように工夫をしています。また納涼祭やクリスマス等行事ごとに行事食も提供しており、季節感を感じたり食事を楽しんでもらえるようにしています。

コロナ禍以前は食事、おやつ作りを利用者様と一緒に行っていましたが、感染対策により実施できない状況にあります。その中で何ができるか考え、利用者様の声を食事に反映し楽しみに繋がる取り組みをこれからも行っていきたいと思います。



利用者の皆様から“監督”いただきながら… 「くびきのファーム」

くびきの
リハビリテーション科長 近藤 直哉

コロナ禍の現在、作業療法のリハビリとして、体を動かすリハビリだけでなく園芸活動に力を入れています。

入所棟では各階のベランダにプランターを置いて野菜作りと花の栽培。

通所リハビリテーションでは「園芸サークル」活動を拡大し露地植えに挑戦！

敷地内の芝を掘り起こして即席の畑に。5月に利用者さんに教えてもらいながら職員もお手伝いして、ナスやトマト、オクラなど、夏野菜を植えました。

私生活では、昨年から自宅のプランターで野菜作りを始め、楽しさの余り素人ながら畑にも挑戦中。全く知識のない状態でしたが、自分の作った野菜を食べる達成感に感動し、少しずつ勉強しながら続けています。

そんな経験から、利用者さんと楽しさを共有したいと思い当施設の敷地内に畑を作りました。利用者の皆様から“監督”いただきながら和気あいあいと取り組んでいます。



栄養科の特別メニューで旬の味を楽しみました。



地域の皆様の健康を願って

ケアホーム三条
支援相談員 駒形 広恵

ケアホーム三条は人口の高齢化と要介護者の増加、住み慣れた地域での自立的な生活志向、医療の効率的運営の推進などを社会背景に、新潟県済生会三条病院の併設施設として平成4年に開設されました。令和4年9月からは超強化型へ移行し、皆様が在宅生活を迎える為の支援をチーム一丸となって行っています。

当施設は社会貢献の一環として「介護・健康教室」を定期的に開催しています。10月には地区集会所に出向いて、作業療法士による講義を行いました。テーマは『要介護の一手前！？フレイルとは何か？』です。大勢の地域住民の方々からご参加いただき、“フレイル状態”についてのお話に皆様熱心に耳を傾けておられました。会の前半には三条市推進の“さんちゃん健康体操”を参加者全員で行いました。

受講後は「今後もこういう機会を設けて欲しい」「少なくとも年4回はやってほしい」「とても分かりやすかった」などの感想を頂きました。今後も職員の専門性を活かし、地域の方々に喜んで頂けるよう活動を続けていこうと思っています。



手芸教室を開催

ケアポートすなやま
作業療法士 野上 友恵

ケアポートすなやまでは、週1回作業療法士による「手芸教室」を開催しています。

近年のコロナ禍でレクリエーションや複数人での活動を制限され、利用者様の余暇時間、楽しみ時間の提供もほとんど行えていない状況でした。それも徐々に緩和してきており、少人数での活動やレクリエーションを再開し始めました。

最近では「紙皿で作る簡単リース」を利用者様と制作しました。皆さん久しぶりの活動にニコニコしながら取り組んでおられ、完成した作品をみて「おやー。キレイだね」と笑顔になられたり、他者との会話のネタになったりと、楽しんで頂ける時間となりました。

職員自身も“お楽しみみの提供”、自分たちで何かを制作したという“達成感の提供”をすることは大切な事だと再認識し、今後も継続していきたいと考えております。

徐々に制限が緩和されてきたとは言え、病院や高齢者施設はまだ活動制限が敷かれる中、色々な取り組みや努力をされている他施設の活動を参考にさせて頂きながら、今後もケアポートすなやまを盛り上げていければと思っております。老健協会の皆様一緒に頑張りましょう!!



大相撲勝敗予想

春風堂
作業療法士 高橋 裕子

当施設では、相撲好きの利用者様と職員で大相撲予想をしています。

初日の2週間前に発表される番付を見ながら、幕内力士3人を選びます。選んだ力士が一勝するごとにもらえる点数や、優勝や三賞、金星を取った時にもらえる加点、途中休場したときにももらえる見舞い点などが決まっています。勝つのが当然と思われる横綱、大関の減点などもあります。得点、加点、減点を全てまとめた総得点により勝敗予想優勝者を決めます。優勝者には賞状と賞品（利用者様が作業療法で作った箱や、刺し子布巾など）が出ます。また、優勝者を横綱とした予想者番付も発表します。



力士の選び方は人それぞれで、上位力士を中心に選ぶ人、推しの力士を必ず選ぶ人（女性利用者様に根強い「遠藤」人気があります）、出身地で選ぶ人、十両から上がったばかりの力士を応援する人など様々です。最近では上位番付の力士が勝つとは限らず、思いもよらない選び方をした人が優勝することもあるとあって、テレビの前で職員も利用者様も一喜一憂しています。



老健さど施設紹介

さど
介護福祉士 石山 みやび

誰にでも記憶に残る、味や香りがあると思います。それらに再会した時、忘れかけていた記憶が蘇り、懐かしく心が温くなる感覚です。

施設の利用者様の故郷、育った環境は様々です。故郷の郷土料理・ご当地メニューを召し上がっている利用者様の笑顔は、普段より格別感じます。

《介護老人保健施設さど》は、利用者様の「楽しかった!」「今日も美味しかったごちそうさま」のために郷土の文化や食を通して、これからも利用者様の心と笑顔を大切にしています。

ICTでトレーニングの効果が見える化し、レクリエーション・リハビリや食などを通して、全職員は、多様なニーズに対応した「大人の遊び場」「自立を支援」として周知し、「在宅復帰の拠点」として地域施設を目指しています。



健マップ



下越地区	11	いいでの里	〒957-0014	新発田市金谷	0254-22-5802
	16	ヴィラ菅谷	〒959-2516	新発田市下石川	0254-31-2000
	28	杏園	〒958-0261	村上市猿沢	0254-60-2222
	47	汐彩の郷	〒957-0105	聖籠町次第浜	0254-28-0555
	58	関川愛広苑	〒959-3261	関川村湯沢	0254-60-4025
	66	豊浦愛広苑	〒959-2311	新発田市荒町甲	0254-21-0065
	67	中条愛広苑	〒959-2619	胎内市十二天	0254-46-5600
	70	二王子	〒957-0332	新発田市虎丸	0254-25-3737
	77	マチュアハウス中条	〒959-2708	胎内市中村浜	0254-45-5111
	80	三面の里	〒958-0854	村上市田端町	0254-53-5330
88	やまぼうし	〒959-2805	胎内市下館	0254-47-3303	
91	優和の里	〒959-3942	村上市勝木	0254-60-5000	

県央地区	12	いっぶく	〒955-0132	三条市長野	0256-41-3810
	13	いっぶく2番館	〒959-1117	三条市帯織	0256-45-0380
	19	エバーグリーン	〒959-0211	燕市富永	0256-92-3030
	32	ケアプラザ見附	〒954-0052	見附市学校町	0258-63-5100
	33	ケアホーム三条	〒955-0833	三条市大野畑	0256-32-7711
	42	さくら苑	〒959-1327	加茂市千刈	0256-53-5353
	57	晴和会田上園	〒959-1512	田上町羽生田乙	0256-46-7777
	72	ぶんすい	〒959-0113	燕市笈ヶ島	0256-91-3333
	76	マザリー三条	〒955-0053	三条市北入蔵	0256-38-7500
	95	「楽楽」	〒959-1263	燕市大曲	0256-62-2671

中越地区	9	あらまち	〒940-0025	長岡市泉	0258-30-0388
	31	グリーンヒル与板	〒940-2416	長岡市与板町横原	0258-72-2500
	43	さつき荘	〒945-1355	柏崎市軽井川	0257-23-6255
	46	サンプラザ長岡	〒940-2111	長岡市三ツ郷屋町	0258-27-1515
	63	てらどまり	〒959-0152	長岡市寺泊下桐	0256-97-3200
	64	桃李園	〒940-2126	長岡市西津町	0258-47-3003
	87	やすらぎ園	〒940-1111	長岡市町田町	0258-33-5551
	89	悠遊苑	〒940-2138	長岡市日越	0258-47-8511
	93	米山爽風苑	〒945-1392	柏崎市茨目	0257-22-0111
	94	楽山苑	〒940-2301	長岡市宮沢	0258-42-3500

上越地区	8	新井愛広苑	〒944-0331	妙高市小原新田	0255-81-1181
	10	アルカディア上越	〒943-0172	上越市大道福田	025-524-3171
	29	くびきの	〒943-0834	上越市西城町	025-526-2161
	35	ケアポートよしだ	〒941-0067	糸魚川市横町	025-553-2682
	39	国府の里	〒942-0081	上越市五智	025-544-2525
	45	サンクス米山	〒949-3255	上越市柿崎区上下浜	025-536-6622
	59	そよかぜ倶楽部	〒943-0864	上越市今泉	025-522-8700
	60	高田の郷	〒943-0147	上越市新南町	025-526-2558
	71	はねうまの里	〒944-8501	妙高市田町	0255-72-3199
	73	保倉の里	〒942-0314	上越市浦川原区顕聖寺	025-599-3990

み

ん

な

の

広

場

希望の里松涛園

入所のご利用者様方が制作された作品集です。大きさは概ね2㎡で、四季折々の題材を折り紙やお花紙で貼り絵にして頂いています。出来上がった作品はいつでもどなたでも鑑賞できるように、廊下やデイルームに飾っています。



ほほえみの里きど

通所利用者様で分担して、200個ほどの紙を折り、その紙を形にしてくれる利用者様がいて、皆様で協力されて作品を作られています。施設玄関に作品を展示させて頂いております。



杏園

デイケアご利用者様の作品。菊を主とした110cm×110cmの大型リースです。個々の出来る事に合わせてパーツ作りを行い、ご利用者様同士で話し合いながら花の大小、葉や色のバランスも考え仕上げて下さいました。パーツの一つ一つには沢山の個性が集まり、題名『菊祭り』らしい、鮮やかでボリュームのある作品となりました。



くびきの

「上越市老人クラブ連合会」の皆さんが不要なタオルを集めて届けてくださいました。利用者さんのリハビリテーション（作業療法）で雑巾づくりを行い、近隣の小学校・幼稚園・保育所へお届けしています。資源の有効活用だけでなく、地域内の交流にも繋がっています。



ケアホーム三条

入所ご利用者様と通所リハビリテーションご利用者様の作品です。新年を迎える際に、より良い一年になるよう願いを込めて作成していただいています。素材を使い分け、虎や兎の毛並みなどが上手く表現されています。



ケアポートすなやま

当施設の通所リハビリテーションでは書道の時間を設けています。みなさま真剣に取り組み、出来上がった作品は自宅に持ち帰り家族に見せたいとおっしゃられる方もおり、書道のモチベーションとなっているようです。



春風堂

当施設の園芸クラブでは、花の種まき、生け花、さつま芋の植え付け、収穫などを行っています。冬場は畑に出られないので、椿の作品作りを行いました。施設が明るくなったようです。



さど

老健さどでは、利用者様に季節を感じ、施設生活を楽しんで頂けるように、毎月の季節に合わせて利用者様と一緒に掲示板(壁面)を作成しています。11月は、文化祭が行われた為、文化祭に向けて、クリスマスの掲示物(壁面)を作成しました。



編集後記

皆様のご協力により「老健にいがた」52号を無事に発刊することができました。原稿依頼に際し、快くご承諾いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。今年度は、3年ぶりに全国老人保健施設大会が開催され、新潟県から参加された施設の皆様より原稿を執筆いただきました。来年度は、新潟県老人保健施設大会が4年ぶりに開催される予定です。新型コロナウイルス感染症が落ち着き、多くの施設の皆様が参加できることを願うばかりです。まだまだ寒い日が続き、新型コロナウイルスに加えインフルエンザにも注意が必要ですが、引き続き感染対策・健康管理に努めてまいりましょう。(広報委員一同)

新潟県介護老人保健施設協会広報誌 「老健にいがた」第52号

編集・発行 新潟県介護老人保健施設協会
広報委員会
〒945-1392 新潟県柏崎市大字茨目字ニッ池2071番地1
介護老人保健施設米山爽風苑内
TEL (0257) 22-0111
FAX (0257) 22-0112
URL <http://niigata-rouken.org/>
印刷 野崎印刷株式会社